国分一太郎君の仕事

村山俊太郎

青空文庫

国分一太郎君が、私と親しくなったのは、昭和二年、同君が師範の三年で、私が師範の専攻科時代に始まる。その頃二人は、同じ汽車のなかで短歌を語ったり、万葉を語ったりしていた。それから十年あまり、私と国分君とは兄弟以上の親しさになり、よろこびもかなしみも、ほろにがい生活の味もともにかみしめてきた。

佐々木昂さんは、国分のことについて語るならば私が一番よいといっていられるが（教育週報）実は知りすぎていて語れないもののひとりが私だろうと思っている。

今、国分の仕事を客観的に語っていただく最適任者のひとりである昂さんは、二度目の愛弟の遺骨を大阪で迎えて町葬をすまさねばならない。このかなしみは慰める言葉もない。このゆえに私は代わって国分のことについて語らなければならぬ。

二十七の若さで倒れた国分が、これまでなした仕事については、今更私がここにおしゃべりする必要もなかろう。まず昭和五年長瀞に赴任し、文集〝がっこ〟をつくり、翌年は短期現役を終えてから文集一冊と詩集一冊をつくり、それ以来精力的にコツコツと原紙を切り、ルーラーを回転し、文集〝もんぺ〟〝もんぺの弟〟を出した。積み重ねると机の高さにもおよぶであろうこの文詩集をみるたび、私はいったい何をしていたろうかとムチ打たれながら驚いていたのだ。

国分はその後さまざまな教育ジャーナリズムのうえに良心的な論文を発表しているが、この仕事は、すべて子どもに打ちこんだ実践を土台とするものであり、そこに国分一太郎の本質的な仕事の光がある。単行本に収められている綴方、読み方の論述だけでも優に部厚い本に纏まるほどだが、教国、実国、綴方生活、工程、国研をはじめ、全国の地方誌に掲載した綴方教育の論説だけでも三十篇をこえている。ことに最近ものし始めた彼の随筆、童話、創作、童詩などには、彼独特の子ども観察を描き得て私のもっとも愛する彼の仕事だと思っている。私は今これらの仕事について語るだけの紙面は持っていない。

今回、扶桑閣から出版した〝教室ノート〟は彼の教室記録である。あんな大部な文詩集をつくりながら、よくもこんなに丹念に毎日の記録をとったものだと思わせるほど、国分君はすばらしい教室記録を書き綴っている。この記録は全部未発表のものである。一日一日の子ども生活の観察が、あの鋭い国分の〝眼〟をとおして描かれている。

私はこの記録を整理しながら、このままで出してしまうのはまったく惜しい気がした。この記録を土台にして元気になった国分が系統的に纏めてくれたら、すばらしい生活教育の実際が記録されるであろうが、今私は戸塚君や、佐々木昂さんと相談して、国分の仕事の素材の一部分を諸兄姉の手もとに紹介させてもらうだけの仕事きりできない。

私は国分がいかに熱情的に子どもの生活を組織しようとして働いたかの、ほんの一部分でもに諸兄姉がふれていただいたらと思う。そこにはいささかの、ごまかしも安易も妥協もない。

採録した創作も、随筆も、童話もこうした国分君の一面を表現するものとして私たちは親しむことができる。

原稿の整理のことで国分の枕もとを訪ねた私に、幾度か〝遺著〟になるような気がしてと囁いて、心を暗くさせていた国分も最近で

は〝もう死なない自信がついた〟と笑ってくれた。私はこの笑いを、全国の諸兄姉――温かく心を寄せてくださった方がたの前におくりたい。そして扶桑閣のこの仕事（救援出版）をひとりでも援助してくれることを願っている。

（十月）

青空文庫情報

底本：「村山俊太郎著作集　第三巻」百合出版
1968年（昭和43）4月5日第1版第1刷発行
入力：しだひろし
校正：土屋隆
2010年2月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

国分一太郎君の仕事

村山俊太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/